

関西石川県人会連合会

県人会だより

2024年度 第1号
令和6年 6月



関西石川県人会連合会
第9代会長 東 孝司



震災ボランティアの様子



水道復旧工事の様子

○甲子園応援

4年ぶりに、石川県から、星稜高校と日本航空石川の2校が出場しました。3月14日に星稜高校、21日に日本航空石川を激励し、試合当日は、連合会の応援団を結成し、県勢の活躍を祈り、声援を送りました。

昨秋の神宮大会を30年振りに優勝した星稜高校は、優勝候補の前評判のとおりに、1回戦で和歌山県の田辺高校を4対2で勝利したのを皮切りに、次々と勝ち進み、春の甲子園大会では、石川県勢初となる準決勝進出という快挙を成し遂げました。準決勝では、優勝した群馬県の健大高崎に4対5で惜敗し、念願の石川県勢の甲子園大会の優勝は、今夏以降に持ち越しとなりました。

一方、日本航空石川は、震災で学校の敷地内のひび割れや寮の損傷などにより、大会まで他県での生活を余儀なくされました。厳しい状況でしたが、1回戦で、強豪の茨城県の常総学院に0対1で惜しくも敗戦しましたが、最後まで勝利を信じてプレーする姿に応援する県人会員も胸を熱くさせました。



星稜1回戦 田辺高校戦 試合前



日本航空石川激励会

県人会活動

○大阪能登互助会新年会

関西在住の能登出身者らでつくる大阪能登互助会の新年会が1月9日、大阪市のホテル日航大阪で開かれ、役員、来賓らが参加しました。松生義邦副会長（連合会常任理事）司会のもと、進められ、山本三郎会長が「能登半島地震が我々に与える影響が大きい、今年は何年通りの事業を行っていききたい」挨拶しました。

来賓を代表して、東孝司連合会会長が祝辞を述べました。他にも兵庫達夫関西輪島会会長（連合会副会長）、上村英輔ナニワ工務店社長、辻口信良弁護士（連合会副会長）ら6名がご紹介されました。山下幸則県大坂事務所長の発声で乾杯して、参加者が震災や近況について、歓談しました。最後に谷内田栄次副会長（連合会会計）が閉会の挨拶をし、無事終了しました。

○加賀浴友会新年会

加賀出身の関西在住の公衆浴場業者らで構成される加賀浴友会の新年会が、能登半島地震もあり開催が危ぶまれていましたが、1月24日に大阪市の千日前ニューミュンヘンで開催されました。会では、会の中松会長（連合会副会長）の挨拶のあと、来賓祝辞がありました。会の中では震災のことが話題の中心となっていました。中松会長と小松銀窓会から、それぞれ山下幸則県大坂事務所長へ能登半島地震の義援金の贈呈がありました。



会長ご挨拶
関西石川県人会連合会 第九代会長 東 孝司

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。突然の災害で、多くの方が大切なご家族やご友人そして住み慣れた家を失われたこと心よりお見舞い申し上げます。被災された皆様は、今も心身ともに大変なご苦労をされていることと思います。一日も早い復旧復興を願っております。震災から、早5か月が経過しましたが、被災地は、半島という地理的な特性もあり、特に水道のインフラの復旧には時間を要しており、被災者の仮設住宅への入居も希望者全員が入居できるのは今夏頃と報道されています。ある程度落ち着くといえるのは、当分先だと思えます。

場を目の当たりにして、懐かしい風景が一変した姿を見て、言葉で言い表せないような驚きと物悲しい気持ちになりました。このままではいけないと気持ちを新たにしました。1月に連合会の情報交換会で役員の皆様から、お話を伺いして、連合会として、震災の義援金を拠出し、これまで計2回、大阪市内で県人会員とともに義援金活動を実施しました。

連合会のみならず、各県人会の方々が「自分たちができること」を被災者支援のために頑張っている姿を見て、嬉しく思っております。百貨店前や地域のイベントで義援金活動を行っていたり、各県人会の総会などで義援金を呼びかけたり、被災者支援のためのクラウドファンディングの立ち上げなど、ここでご紹介しきれないほどの沢山の活動をしていただいています。今回の震災の復旧復興は数

年単位だといわれています。今我々ができることは、震災のことを風化してしまわないように、会員の皆さんの頑張りをお長く継続していくことが重要です。私も、これからは、ふるさと石川のために取り組んでいく所存でございます。

連合会活動

○関西石川県人会連合会役員情報交換会



1月17日に連合会の役員情報交換会が、大阪市のホテル日航大阪で32名が参加しました。能登半島地震を受けて、連合会の今後の活動について、協議しました。東孝司連合会会長は、「被災者が必要としているものを把握し、復興が見える形をいつまでに方向付けていくかが必要だ」と挨拶しました。平成7年の阪神淡路大震災で被災した出席者も多く、自身の体験から、故郷石川のために考えられることを話しました。宮崎和夫副会長や米田喜憲副会長らは、所属の各会での活動を報告しました。

○災害義援金を寄付

能登半島地震を受けて、連合会では、2月15日、石川県へ能登半島地震災害義援金10万円を寄付しました。当義援金は、関係団体等で構成される石川県災害義援金配分委員会により配分基準等を決定し、市町を通じて被災者の皆様にお届けします。令和6年2月1日、4月3日の計2回の配分委員会が開

被害区分区分	義援金単価			
	第一次配分	第二次配分	合計	
人的	死者・行方不明者	20万円	80万円	100万円/人
	重傷者	10万円	—	10万円/人
住家	全壊	20万円	80万円	100万円/世帯
	大規模半壊	15万円	60万円	75万円/世帯
	中規模半壊	10万円	40万円	50万円/世帯
	半壊	5万円	20万円	25万円/世帯
	準半壊	—	10万円	10万円/世帯
	一部損壊	—	3万円	3万円/世帯
6市町全住民	5万円	—	5万円/人	

催されました。4月1日現在、約56億円の義援金が集まっております。義援金をお寄せいただいた方々のご厚志が被災者の皆様に伝わり、新たな生活に向けた動機づけとなるよう広く配分されています。左表のとおり、住家被害の程度に応じた配分及び人的被害（死者・行方不明者）の配分となっております。

(表は石川県HPより)

○義援金活動



2月28日、大阪市梅田の阪神百貨店前の街頭で、能登半島地震災害義援金の募金活動を行いました。急な呼びかけにも関わらず、県人会の会員ら約30人が参加しました。連合会のタスキ・ハキマキを身に付け、参加者が一致団結して、ふるさと石川のため、義援金の協力を呼びかけました。東孝司連合会会長、関西輪島会の兵庫達夫会長（連合会副会長）、関西珠洲会の会員が参加し、芸人の高井ギヤラ

○義援金活動2

さん、曲独楽師の伏見紫水さんも急遽参加しました。平日の正午から夕方までの人通りの少ない時間帯かつ肌寒い天候の中でしたが、石川を応援してくれる多くの方のご厚意をいただき、約12万の募金が集まり、石川県へ義援金として全額寄付いたしました。

2回目の県人会連合会の義援金活動が4月6日に大阪の新たなランドマークならば広場で約20名が参加しました。晴天にも恵まれ、当日は、約76万円の募金が集まりました。この日の義援金活動は、能登半島地震で被災を経験した石川県の復興支援と観光PRを行うことを目的として開催され、その支援の一つとして実施されました。ステージでは、石川県観光PRマスコットキャラクターひやくまんさんも登場し、大いに盛り上がりました。県物産展ブースでは、加賀棒茶や九谷焼などの特産品が販売され、多くの来場者が購入されました。石川

県の食材を使った飲食ブースでは、能登牛のステーキ丼・金沢風おでんや石川県の地ビールや地酒など、多くのお客様にご好評いただきました。伝統芸能のパフォーマンスでは、石川県の無形民俗文化財に指定の「白峰かんこ踊り」が披露され、その力強くも軽快に踊る姿で多くのお客様を魅了していました。

